2023年6月1日発行

明治学院大学 社会学・社会福祉学会

# 学内学会会報 第32号

## 加藤雄司先生を偲ぶ

名誉教授　松原　康雄（元社会福祉学科教員）

昨年の６月加藤先生ご逝去（95歳）との連絡を本学部構成員からいただきました。

加藤先生は1977年、社会学部社会福祉学科教授として本学に着任されましたので、着任順でいえば私よりも少し上の先輩教員であり、人生経験や社会人経験では、ずっと上の先輩でした。本学には96年３月まで在籍され、研究・教育、学部運営に多大な貢献をされたことは改めて確認するまでもありません。精神科医である加藤先生の研究に関しては、門外漢である私が紙幅を埋めることは適切ではないでしょう。加藤先生は社会福祉分野の実践で身につけておくべき精神保健分野の基礎知識を学部学生に教授するとともに、学部運営については、社会学部付属研究所長、社会学部長として職責を常に沈着冷静に全うされました。大学に勤務する精神科医としては、大学全体の健康相談所長も担われていました。専門分野の関係から、教員でありながらも教職員・学生等の精神保健的な支援など履歴に残らない貢献も多々あったと思われます。

プライベートな側面では、クラシック音楽鑑賞がお好きで、退任記念号の「送る言葉」でも、複数の教員から加藤先生の造詣の深さに関する記述がなされています。私とのかかわりで思い出すのは、加藤先生が研究所長で私が所員であった頃、応援するプロ野球チームが異なり、私がひいきするチームが加藤先生の応援するチーム勝った時には必ずといっていいほど、わざわざ通勤途上でスポーツ新聞を買い込んで、研究所で昼食休憩の折りに、拡げるというような、悪のりにおつきあいくださるという側面もありました。加藤先生にはスポーツ紙は似合わず、新聞であれば「日経」か「朝日」（実際に読まれていた新聞名は知りません）のイメージがありました。加藤先生は服装も常にお洒落でしたし、スマートな立ち居振る舞いをされる方でした。ステレオタイプですが、先生の出身大学である学生・卒業生を指す「慶応ボーイ」であったと思います。一方で、茶目っ気もおありになり、当時の学部懇親会の〆で唱われる明治学院校歌を割り箸のタクトで指揮される姿も恒例のものとなっていました。午後以降はお茶の類を一切とらないという「こだわりも」知る人ぞ知るエピソードです。

御退任後は年賀状のやりとりはさせていただいていたものの、直接には数回程度しかお目にかかることができませんでした。先輩でありながらも、後輩のちょっかいに寛容でいてくださった加藤先生のご冥福をお祈りします。

# 再出発の１年

社会学・社会福祉学会　学生部会　委員長　佐藤　博久（社会学科３年）

卒業生・在学生の皆様、日頃よりご支援賜り、ありがとうございます。また、先生方・事務局の方々におかれましては、暖かいご指導・ご鞭撻いただき感謝しております。

学生部会の委員長を拝命している社会学科３年の佐藤博久と申します。この場をお借りして学生部会の１年間の変遷をご紹介いたします。

まずは、昨年度のはじめよりお騒がせしておりましたSocially の発行形態が決まり、Socially+ として再出発を果たすことができましたことをご報告いたします。

皆様から頂戴したご意見等も踏まえて冊子としての形態を維持しつつ、今後も学生部会が発行し続けられる工夫をいたしました。内容としては、学部生の身の回りの関心を種に、大学の話題や、気になった書籍、開催したイベント、学生からみた社会学のあれこれを掲載するものとしました。この変更によって、「学生を含めた誰もが手に取りやすく、ちょっと知的なワクワクをお届けできる冊子」に生まれ変われると期待しております。

また、このSocially+ は紙面割から取材・執筆、そしてデザインに至るまで学内学会に所属する学生が行なっております。担当の学生が工夫を凝らして作った第一作目。ぜひお読みいただけますと幸いです。

そして、昨年度の学生部会の一大イベントといえば人数のＶ字回復と言えるでしょう。Socially+ の刊行をはじめとした昨年から始動したコンテンツ・企画の原動力となっております。

この30人近い人数増加に大きな役割を果たしたのが、４月初頭に開催された履修相談会です。他のどのサークルも履修登録の前日・当日は対応しておらず、これまで手の届いていない痒い所に参入した結果、Twitter のスペース（インターネット上のラジオ配信ツール）の同時接続者数200人超を達成いたしました。やはり、学生部会が学生の多くから頼られており、学部のコミュニティのハブになる可能性を再認識することができました。

しかしながら、一気に５倍にまで増えた人数を経験したことのない上級生の間では迷いも絶えず、新入生の多くに無理を強いることも多かったと反省しております。そんな中でも新入生を含めた学生部会の全員が、１年をかけて自分のすること・できることに気づき、コミュニケーションを密にしながら、各々の得意分野を生かした仕事ができるようになりました。この主体性の成長は私たちの誇りとなりました。

今年度の Vision に「楽しい場所づくり」を掲げております。まずはコンテンツやイベントを企画する学生部会のメンバーが楽しんで仕事をできること、そして、学生に「社会学部に入ってよかった」と思ってもらえるような、楽しく、知的な企画をすることを Mission として活動に取り組んでおります。

ありがたいことに最近では先生方からのご相談を伺うことも増えてきました。学生・先生方・卒業生の架け橋となりながら、各々の楽しさを感じられるよう、学生部会はこれからも精進してまいりますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

## 2022年度　学内学会活動報告

★会報31号発行

６月１日㈬　発行部数　2,600部

★第32回総会

７月２日㈯　にオンライン（Zoom）で開催した。

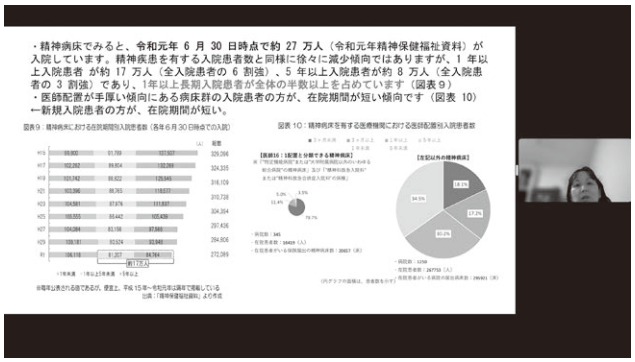
2021年度決算報告、2022年度予算案について、参加者全員の賛成と委任状17通をもって、承認された。

その後「Socially」の今後についての議論があり、従来通りのSocially は 30号を区切りとして休刊することが承認された。また、新たな形での冊子制作についても承認され、2022年度からは学生部会を中心に新たな形での冊子発行を進めていくことになった。総会参加者は38名（教員８名、学生25名、卒業生４名、事務局１名）であった。

★研究発表会

12月17日㈯　オンライン（Zoom）で開催した。

３分科会で合計16件の発表が行われた。内訳は、ゼミ発表２件（社会学科１件、社会福祉学科１件）、調査実習Gr発表１件、個人発表13件（社会学科５件、大学院社会学専攻３件、大学院社会福祉学専攻5件）であった。個人発表の13件のうち8件は大学院生による発表であった。今年度もオンライン開催となったが、人生や現場で見た事柄に着想を得たテーマによる発表も多く、新たな学びや気づきを得る充実の時間となった。３つの会場の司会進行は学生部会メンバーが担当した。



●第一分科会

平澤恵美　実習クラス（８名）

LGBTQ と精神疾患

金圓景 ゼミ（５名）

社会福祉におけるライフヒストリー

福元 舞子（22SWM）

企業におけるメンタルヘルス対策としてのソーシャルワーク・スーパービジョンの可能性

滝吉 菜穂子（22SWM）

精神科長期入院者の退院阻害要因からみえてきた地域移行支援のあり方

今村 洋子（21SWM）

養護老人ホームの運営基準の変遷に関する考察
――A施設の事業報告書の分析から――

●第二分科会

坂口緑 ゼミ（４名）

港区の海洋水質対策と子どもへの環境学習について

羽藤 和香（19SG）

無人販売店における ANT の実践的考察：非人間を含めたネットワークの広がりから新たな連関を描く

五斗田辰丸（19SG）

家庭内における「宗教２世」に対する信仰継承の成否について

周楠（21SGM）

現代中国の農村出身の女性の子供に対する性別選好意識

シュウ エイ（21SGM）

オンラインゲームでつながると何がもたらされるのか―台湾人ゲームコミュニティにおける友人関係―

●第三分科会

巣原 遥貴（19SG）

能力主義の何が問題か

平元 優果（19SG）

なぜ日本社会において死は秘匿とされるのか

山本 彩由（18SG）

在日コリアンに対して差別感情を抱く人々が一定数存在する現状について、ヘイトスピーチから考察する

Liu Chang（22SGM）

偏見行為の歴史とコロナ禍のなかの状況

宮田 将希（22SWM）

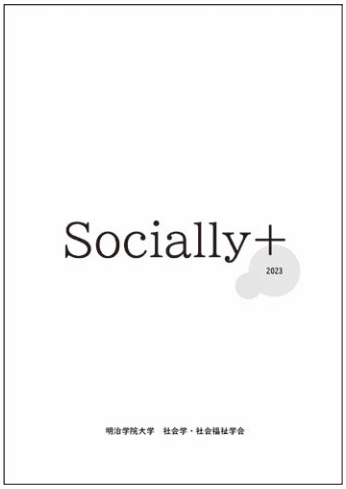
児童養護施設における長期入所の課題について

井内 千津子（22SWM）

障害者の職場における就労定着支援とは何か
―先駆的事業所へのききとりからの知見―

★Socially＋ 2023号発行

３月17日　発行　部数　2,000部。




中綴じ冊子、フルカラーへとリニューアルし、企画・デザイン・編集も学生部会が一から作り上げた。

## 学生部会活動報告

学生部会の活動を広く知っていただく為、年間活動内容を一新した。

【通年企画】

☆Twitter・Instagram 運営・質問対応

学生の履修やキャンパスライフの疑問や不安を解決する窓口として運用。この取り組みをきっかけとして入会する人も多くいた。

☆HP 立ち上げ・運用

学生部会のコンテンツのポータルとして始動。社会学部生が困ったときに訪れる場所として整備した。

☆週刊ラジオ(Social Clock!)

横浜キャンパスに通う学部1年生をメインターゲットに、その週の大切な情報やイベントを伝える。社会学に通じる映画などを紹介。

☆アカデミックラジオ(STEP自由研究)

授業で聞き逃してしまいがちで大切なこと、社会学を面白いと感じてもらうことを目標に内外に発信するラジオ・Web企画。

☆明学散歩

学内や学外の学生向けスポットを紹介する動画企画。

【年間活動】

★新入生学科ガイダンスでの広報

４月２日㈯　新入生学科ガイダンスは、１教室に学科入替制で行われた。Socially30号を配布するとともに新入生の誘導を行った。広報の時間をいただき、活動の紹介・勧誘のための説明を行った

★履修登録相談会（Twitter スペース）

（担当　佐藤一貴・佐藤博久）

４月６日㈬　200名以上を動員し、履修登録に不安を抱える新入生たちを、中立かつ専門的な立場からサポートした。

★社会学科ゼミサロン（担当　金子由衣奈・佐藤一貴・佐藤博久・上野文華・河南恭子・並木彩華）

10月８日㈯　ゼミ選びを直前に控えた２年生を対象に、教員を介さずに直接ゼミ生の声を聞けるイベントを開催。

動員者数は30名程度にとどまったが、時間が合えば参加したかったという声が多く聞かれ、満足度は非常に高かった。

★白金祭金子ゼミ取材・白金祭MGC取材

（担当　佐藤一貴・佐藤博久・渡邉葵衣 ）

11月３日㈭　白金祭で教室発表団体の社会福祉学科金子ゼミやMGCの取材を行い、執筆。HPに掲載した。

## 異動・消息

2022年６月　加藤雄司名誉教授　ご逝去。

2023年４月　社会福祉学科に関水徹平先生が着任。

## 学内学会　新体制

| | |
|---|---|
| 会長 | 藤川　賢<br>（社会学部長・社会学科教授） |
| 副会長（主任） | 松波　康男<br>（社会学科准教授） |
| 副会長 | 茨木　尚子<br>（研究所所長・社会福祉学科教授） |
| 編集担当 | 宮﨑　理（社会福祉学科准教授） |
| 企画担当 | 佐藤　正晴（社会学科教授） |
| 会計担当 | 米澤　旦（社会福祉学科教授） |
| 卒業生部会委員長 | 堀込　伸一（1992年卒業） |
| 学生部会委員長 | 佐藤　博久（社会学科３年） |

## 2023年度　学内学会活動予定

| | |
|---|---|
| ４月３日㈪ | 【学生部会】新入生学科ガイダンスで広報（白金校舎）履修相談会（Twitterスペース、Instagram） |
| ４月16日㈰・22日㈯ | 【学生部会】入部説明会（Zoom） |
| ６月１日㈭ | 会報32号発行　2,500部 |
| ６月２日㈮ | 第１回合同役員会議（Zoom） |
| ６月24日㈯ | 第33回総会・特別講演会 |
| 10月中旬 | 【学生部会】社会学科ゼミサロン |
| 10月下旬 | 【学生部会】講演会 |
| 11月中旬 | 【卒業生部会】社会福祉学科卒業生と在校生の交流会 |
| 12月上旬 | 【学生部会】上映会 |
| 12月16日㈯ | 研究発表会（開催方法未定） |
| ２月中旬 | 第２回合同役員会議 |
| 日程未定 | 【卒業生部会】講演会 |

## 第33回 総会・特別講演会のお知らせ

今年度はハイブリッド（オンラインと対面の同時開催）にて、総会・特別講演会を開催いたします。
柔軟に参加しやすい形ですので、多くの皆様のご参加をお待ちしております。

日時：６月24日㈯
14：00（対面時受付開始13：30）
会場：明治学院大学　白金校舎　3号館1階3202教室
Zoom会議室
＊講演会のみのご参加も可能です。

1. 総会　14：00 ～ 14：45　学内学会　総会
2. 特別講演会　15：00 ～ 16：30
テーマ『性的マイノリティをめぐる寛容性と不可視性』
講師　石原英樹教授（社会学科）
※講師は対面で参加予定です。

連　絡　先：〒108-8636　港区白金台1-2-37
明治学院大学社会学部付属研究所内
明治学院大学社会学・社会福祉学会
E-mail shakaimg@soc.meijigakuin.ac.jp
会費振込先：ゆうちょ銀行
店名　〇一九（ゼロイチキュウ）店
預金種目：当座預金
口座番号　0096903
加入者名　明治学院大学社会学・社会福祉学会

振込依頼人名は「在学時のカタカナフルネーム」と「入学年」を記載ください。
例）2018年入学、2022年卒業　明治学子（在学時旧姓：社会）さんの場合
振込依頼人名：シャカイガクコ　2018

※今年度より、銀行振込も可能になりました。（郵便振込も引き続き可能です。）確実な振込情報確認の為、銀行振込後は以下のQRコードより振込日をお知らせください。
※住所・氏名変更の際は、ハガキ・E-mail又は右のQRコードよりご連絡ください。